

産地パワーアップ事業評価書

都道府県名	事業実施地区数ア	評価対象外地区数イ	評価対象地区数ア-イ	成果目標の平均達成率	評価対象地区数のうち、都道府県が地域協議会へ改善指導を必要とした地区数	地方農政局等から都道府県計画の改善指導の必要の有無	【参考】評価対象地区数のうち、達成率80%未満の地区数	都道府県による総合所見	地方農政局等による総合所見
長崎県	31	15	16	55%	11	有	10	<p>事業実施により、園芸部門においては、キャベツ、レタス、ばれいしょ、たまねぎ、みかん、ぶどうでは、集出荷施設、選果機、冷蔵庫の導入およびトンネル資材等、機械の導入が行われ、安定生産、集荷体制が構築されたことで、ばれいしょ、レタス、たまねぎ、みかんの産地の維持拡大に寄与している。これに伴い、出荷量も増加したが、暖冬の影響で全国的な市場価格の暴落により販売額の増加に繋がらなかった品目があった。キャベツでは単収向上のための栽培技術が定着せず、栽培面積の減少により販売額が伸びなかった。みかんでは選果機の導入により、品質が向上し、事業実施前に比べ、高単価になった。野菜については、価格変動のリスクを最小限にするために、作型分散による生産体制の検討やキャベツでは単収向上の技術を確認し、新規生産者の確保や規模拡大を希望する生産者の農地の確保による規模拡大など、県、市町、農協等の関係機関が連携して、事業実施主体への指導、支援をさらに強化していく必要がある。</p> <p>施設園芸では、小菊、アスパラガスの選別機、ブロッコリーの製氷機、スプレーギク、キクの低コスト耐候性ハウスが導入された。キクでは選別機の導入による選別作業の効率化がはかられたことで、栽培管理の改善につながり、品質向上に寄与した。ブロッコリーでは水詰め出荷により品質が向上し、単価の向上により販売額の増加につながった。アスパラガスでは、栽培面積の減少に伴い、販売額は減少し、出荷量が減少した。今後、新規生産者の確保とともに、改植後の単収向上のための肥培管理など県、市町、農協等の関係機関が連携して、事業実施主体への指導、支援を強化していく必要がある。花き類では、夏季の高温の影響により病害が発生し、出荷本数が減少し、販売額が伸びなかった。今後、夏季の病害対策および寒冷紗等を活用した下温対策、良質な苗生産による品質向上について、県、市町、農協等の関係機関が連携して、事業実施主体への指導、支援をさらに強化していく必要がある。</p> <p>水稲、大豆、麦、そばについては、乾燥調整施設、省力化機械の導入により、栽培面積が維持拡大し、対馬市の水稲、そば、島原市の麦の出荷量は増加し、販売額も増加した。五島市の麦、大豆は、安定生産のための排水対策、適期播種などの栽培管理が不十分で販売額の増加に繋がっていないため、今後、県、市町、農協等の関係機関が連携して、事業実施主体への指導、支援をさらに強化していく必要がある。</p> <p>茶については、防霜ファン、被覆資材の活用により、品質が</p>	<p>県の成果目標平均達成率は、国が達成と判断する90%に対し55%であり、目標は達成されていない。</p> <p>このため、農政局から県に対し、成果目標の達成に向け、要因の分析及び改善措置の提出を求めるとともに、未達成の地域協議会及び取組主体に対しては、県担当者による指導を行うなど、県による主体的な取組を指導する。</p> <p>なお、長崎県が改善指導を必要とした地区（達成率100%未満）については、以下の11地区である。</p> <p><参考：成果目標未達成地区の概要></p> <p>【水稲】1地区 「販売額の10%以上の増加」を目標に乾燥調整施設の整備を行った1地区について、法人への農地集積を進め、総販売額は増加したものの、高温障害による品質低下により販売単価が下がったことから成果目標は未達成となった。</p> <p>【麦・大豆】1地区 「販売額の10%以上の増加」を目標にトラクター等のリース導入を行った1地区について、麦大豆への転換が図られたものの、作付転換に応じたオペレーターの配置不足で、適期作業が出来ず、10a当たり収量は低下し、生産量が減少したことから、成果目標は未達成となった。</p> <p>【そば】1地区 「販売額の10%以上の増加」を目標にコンバインのリース導入を行った1地区について、台風等の気象被害により、収穫できなかったほ場があったことから、生産量が減少し、成果目標は未達成となった。</p> <p>【野菜】3地区 ・「販売金額の10%以上の増加」を目標に、キャベツの貯蔵施設を整備した1地区について、暖冬による出荷の集中により生産量が多い時期に契約数量以上の出荷ができなかったこと、春季には排水不良等より単収が低下したこと等により、成果目標は未達成となった。 ・「販売金額の10%以上の増加」を目標に、レタスのトンネル資材導入を行った1地区について、目標生産量は確保できる見込みであったが、暖冬による出荷の前進化や出荷の集中により供給過多となり、契約先から出荷を止められたため、成果目標は未達成となった。 ・「販売金額の10%以上の増加」を目標に、アスパラガスの選</p>

向上するとともに、出荷量が増加したことから販売額が増加した。今後も引き続き、県、市町、農協等の関係機関が連携して、事業実施主体への指導を継続していく必要がある。

別機の整備を行った1地区について、改植による一時的な栽培面積の減少(2ha)や高温時の管理不足による収量の伸び悩み等により、成果目標は未達成となった。

【果樹】2地区

・「販売金額の10%以上の増加」を目標に、果樹(かんきつ)の集出荷貯蔵施設を整備した1地区について、面積・販売額ともに大幅に上昇したが、全国的な単価と比較すると伸び幅が低いことから、成果目標は未達成となった。

・「販売金額の10%以上の増加」を目標に、ぶどう雨よけ資材の導入をした1地区について、台風の被害(落果等)により出荷量が減少したことから、成果目標は未達成となった。

【花き】2地区

・「販売金額の10%以上の増加」を目標に、菊の低コスト耐候性ハウスの整備した1地区について、夏季の高温の影響により、立枯れ病や開花遅延が発生したことによる販売額及び出荷量の減少、秋キク用の自家苗の確保ができなかったことにより、総出荷量が減少したことから、成果目標は未達成となった。

・「販売金額の10%以上の増加」を目標に、スプレーギクの低コスト耐候性ハウスの整備した1地区について、新設圃場において石やコンクリートが出土し、その後の作業が遅延したことから、既存ハウスにおいても十分な管理ができず計画通りの栽培を行うことができなかったことから、成果目標は未達成となった。

【ばれいしょ】1地区

・「販売金額の10%以上の増加」を目標に、ばれいしょの集出荷施設の整備を行った1地区について、そうか病等の病害の発生により、収量が上がらなかったことから、成果目標は未達成となった。